

# やわらかく ～ 今を感じて～

伊那北小学校 まなびの教室 福島 徹

見事に咲き誇った桜の季節が過ぎてしまいました。

「あの桜ね、近くで見るとすごくきれいなんだよ。」と学童クラブで過ごしていた女の子が学校を遠くに眺めながら話してくれました。体の中に学校の春の風景や匂いがしみこんでいるからこそそのつばやきだったのでしょ。



今年入学した1年生はそんな季節を肌で感じることなく春が過ぎ去ってしまいました。2020年の春は、子ども達の中へどのように刻まれたのでしょうか。この二ヶ月という時間は切なさと同時に子ども達への学びや育ちに対する不安や危機感も大きくふくらめてしまいました。

本年度から、中部地区・北部地区の各小学校2校に伊那北小学校のサテライト教室が開設されました。その関係で週2日は兼務校に出向いています。どの学校も授業がスタートできない状況下で家庭学習の課題作りに追われていました。

**特に1年生。課題どうする？**  
**ひらがなの読み書きだってまだ始まっていないのに。**

伊那市内では全1年生にMIMを実施しているため、この休業期間中に訪問予定を立て市内の小学校を巡回することにしました。訪問先ではMIMの教材確認、教材の使い方、MIMによる早期支援について説明をしましたが、どの学校でも休業中の家庭学習についての悩みが多く寄せられました。

ね ● ね ●  
っ ●  
こ ● こ ●

本校では家庭学習用にひらがなカードを作成し、ひとりずつ配布していたため、市内の各学校でも同様に作成・配布したり、ひらがなの読み書きができなくても取り組めそうなまなびの教室の学習資源をチョイスし各学校に配布したりしてきました。



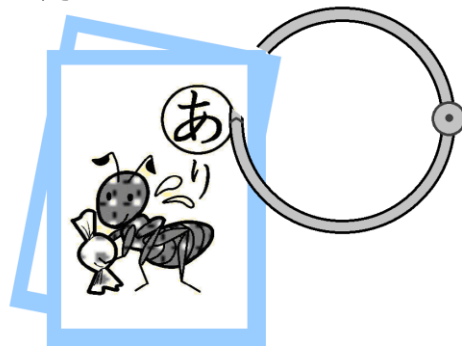
©Gakken E-mirai Co.,Ltd

通級指導教室の対象となっているのは通常の学級に在籍しているお子さん達であることは皆さんもご存じかと思います。通常の学級で学びやすく支えてあるのがこの教室の役割なのですが、今はどの子も学べていない状況、言ってみればどの子も支えを必要としているのです。

**今、我々が求められていること。協力できることは何？**

個人的な考えですが、通級指導教室は特別支援学級寄りではなく、通常の学級の一部としての位置づけなのだろうと今まで思ってきました。今回の緊急事態を通してその『だろう』が『である』になりました。加えて、子ども達を支えるだけでなく、学級担任を支えるという大切な使命があることも見えてきました。

北部・中部・南部それぞれに通級指導教室が設置されており、現在13名が担当しています。どの教室にも学びを支えるための資源やヒントが豊富に用意されています。非常事態に限らず、困った時にはどんどん利用してもらえると嬉しいです。



企画制作・伊那北小学校 まなびの教室  
絵・コマチエ

※ ひらがなカードのイラストは、伊那北小のお母さんが書いてくれました。